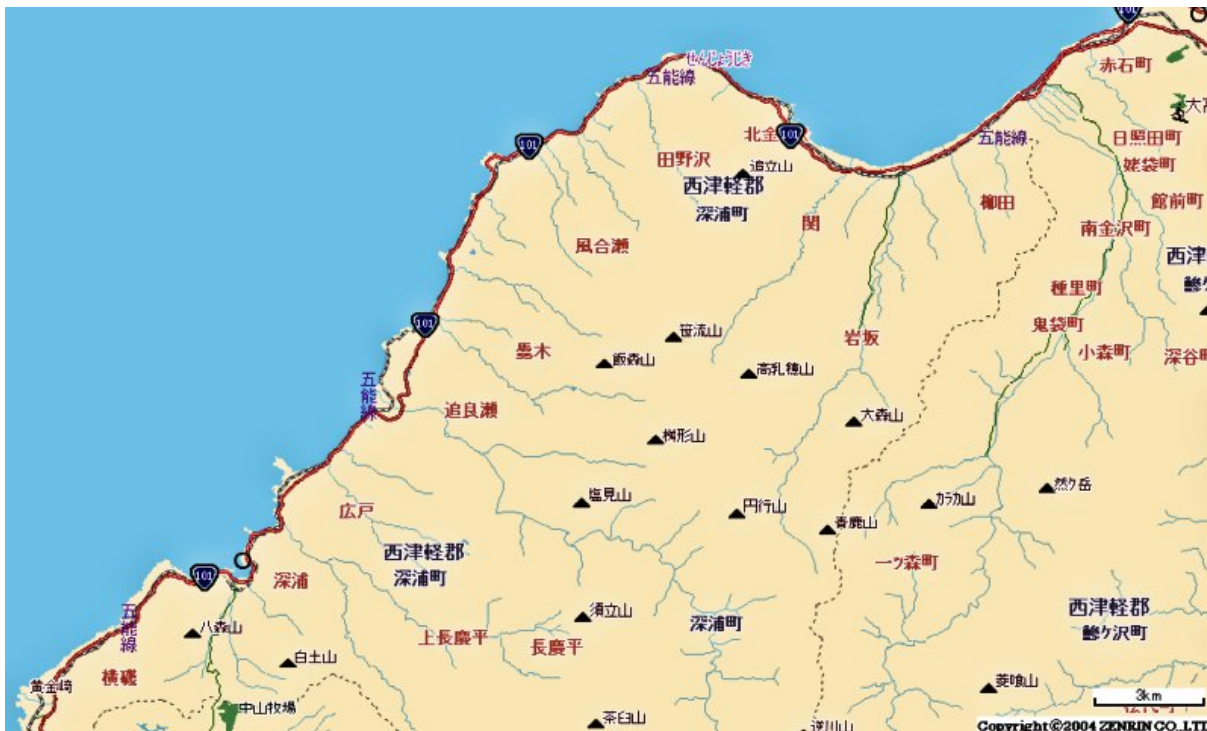


やぶなべ会報

自然を見つめる「やぶなべ会」(青森)発行

誌 名	やぶなべ会報
号/発行年/頁	24 / 2008 / 28-36
タイトル	青森県の植物(3) 西海岸《屏風山～風合瀬～行合崎》
著 者 名	二唐壽郎

自然を見つめる やぶなべ会 (青森)



[図2]深浦付近の地図

次に青森県西海岸とはどこからどこまでなのかといわれるとはっきりしないが地図の上では津軽半島の七里長浜、鰺ヶ沢、深浦そして県境の岩崎までを指している。

そこで今回は砂浜の海岸の代表として屏風山海岸と風合瀬海岸そして海岸自然草原植物や岩隙、砂礫植物など数多くの植物が生えている行合崎の植物について紹介していく。

1. 風合瀬海岸について

鰺ヶ沢と深浦の間に風合瀬海岸がある。風合瀬の地名は難読駅名としてクイズにも出たことがある。読み方の由来は、『かぜあう』-『かぜおうせ』-『かぞせ』-『かそせ』と変化したものだといわれている。地形の関係で常に強い風が吹いていて植物の写真を撮る時もぶれたり飛砂のため難儀することが多い。20年ほど前は広い砂浜が広がっていたがどこも同じように最近では、護岸、海水浴場が整備され砂浜も少なくなっている。



[写真1] 風合瀬海岸

しかしここではまだ砂浜が残されており、海浜植物の宝庫といってよく砂浜に生える植物のほとんどを見ることが出来る。さらにここでは、ほかの地域ではあまり見ることの出来ない温暖植物であるハマゴウの群落も見ることが出来る。

[表1] 屏風山・風合瀬海岸の主な花

※ 色は花の色

植 物 名	科 名	場 所	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
イソスミレ	スミレ科	屏風山海岸		●	●				
ハマハタザオ	アブラナ科	//		○	○	○			
スカシユリ	ユリ科	風合瀬海岸			●	●			
アサツキ	//	//			●	●			
アサツキ(白)	//	//			○	○			
アマニユウ	セリ科	//			○	○	○		
シロヨモギ	キク科	//					●	●	●
カワラヨモギ	//	//					●	●	●
オカヒジキ	アカザ科	//				●	●	●	●
ナミキソウ	シソ科	//			●	●			
コウボウシバ	カヤツリグサ科	//			●	●			
ハマニガナ	キク科	//		●	●	●	●	●	
ウンラン	ゴマノハグサ科	//				●	●	●	●
ケカモノハシ	イネ科	//				●	●	●	●
コウゾリナ	キク科	//		●	●	●	●	●	
コウボウムギ	カヤツリグサ科	//	●	●	●				
ハマベンケイソウ	ムラサキ科	//				●	●	●	
オニハマダイコン	アブラナ科	//			●	●	●	●	●
ハマフウロ	フウロソウ科	//			●	●	●	●	
エゾフウロ	//	//			●	●	●	●	
キバナノカワラマツバ	アカネ科	//				●	●		
エゾノコギリソウ	キク科	//				○	○	○	○
ハマナス	バラ科	//			●	●	●		
ツリガネニンジン	キキョウ科	//				●	●	●	
カセンソウ	キク科	//				●	●	●	
エゾカワラナデシコ	ナデシコ科	//				●	●	●	
スナビキソウ	ムラサキ科	//			○	○	○		
ハマボウフウ	セリ科	//			○	○	○		
ハマヒルガオ	ヒルガオ科	//			●	●	●		
ハマニンニク	イネ科	//			●	●			
ハマエンドウ	マメ科	//			●	●			
コウボウ	イネ科	//			●	●	●		
ハマアカザ	アカザ科	//			●	●	●		
クサフジ	マメ科	//			●	●	●		



[写真2] 行合崎

2. 行合崎について

藩政時代から明治30年頃まで関西地方から絹織物、たばこなど津軽や北海道へ海上輸送し帰りに北海道の海産物など満載した北前船。この船が春から秋にかけて「風待ち湊」としてある深浦港に出入りしていた。その際に船がこの崎で行き交うので「行き逢い崎」と呼ばれるようになった。

行合崎の入り口には、下記のような植物について解説している看板が立っている。なかなか全部読む機会がないので紹介する。

行合崎は日本海の深浦海岸に突き出た平坦な岬で見事な草原が発達しています。このような海岸自然草原は人為的な環境変化により全国的にその姿を消して見られなくなっています。県内では太平洋側の種差海岸草原とともに数少ない残存地として貴重な存在となっています。

この行合崎には草原地帯と合わせて岩隙植物地帯、砂礫植物地帯、塩湿地植物地帯、水湿地植物地帯、低木植物地帯、笹原植物地帯、早春植物地帯、シダ植物地帯等が発達して271種の植物が確認され、その植物相は、極めて変化に富んでおり、このような狭い範囲では、奇跡に近い多くの植物相となっています。



[写真3] 行合崎入り口の植物解説

- ①海岸草原植物地帯： 短茎草地では、ノシバが優先。アズマギク、オキナグサ、ネコハギ、ムシヤリンドウ、フデリンドウ、ウツボグサ、ヒメイズイ、ヒメヤブラン、ヒロハギ。高茎草地では、ニッコウキスゲが優先。ノハナショウブ、オオシユロソウ、タチギボウシ、ナガボノシロワレモコウ。
- ②間隙植物地帯： オニヤブソテツ、ハマボッス、キリンソウ、ハマツメクサ、ハマエノコロ、スカシユリ、エゾネギ、ハマオトコヨモギ。
- ③水湿地植物地帯： タヌキラン、エゾミソハギ、イシミカワ、シロネ、ナガバギシギシ、アキノウナギヅカミ、ママコノシリヌグイ。
- ④砂礫植物地帯： エゾオグルマ、ハマエンドウ、スナビキソウ、ハマベンケイソウ、ハマニンニク、ハマヒルガオ、ウンラン、ハマナス、キバナノカワラマツバ。
- ⑤早春植物地帯： キバナノアマナ、チゴユリ、スミレサイシン、ミチノクエンゴサク。
- ⑥塩湿地植物地帯： ウミミドリ、ドロイ、トウオオバコ、ヒライ。
- ⑦低木植物地帯： カシワ、クロマツ、ガマズミ、ヒョウタンボク、ヒロハヘビノボラズ、ヤマグワ、ノイバラ、タニウツギ、イヌコリヤナギ。
- ⑧高木植物地帯： クロマツ、エゾイタヤ。
- ⑨笹原植物地帯： クマイザサ
- ⑩シダ植物地帯： ゲジゲジシダ、サトメシダ、ミゾシダ、ヤマイヌワラビ、コウヤワラビ、ゼンマイ、メシダ、ワラビ。

前記の看板と重複するが、特に目につく植物の一覧と開花時期を表にする。

[表2] 行合崎の主な花

※ 色は花の色

植 物 名	科 名	場 所	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
アズマギク	キク科	行 合 崎		●					
ムシヤリンドウ	シソ科	//			●	●			
ハマウツボ	ハマウツボ科	//		●	●	●			
ハマアカザ	アカザ科	//					●	●	●
ママコノシリヌグイ	タデ科	//				●	●	●	
ツリガネニンジン	キキョウ科	//					●		
ナミキソウ	シソ科	//				●	●		
トウオオバコ	オオバコ科	//				●	●		
スナビキソウ	ムラサキ科	//			○	○	○		
エゾオグルマ	キク科	//				●	●	●	
ハマエンドウ	マメ科	//			●	●			
エゾノコギリソウ	キク科	//				○	○	○	○
スカシユリ	ユリ科	//			●	●			
ニッコウキスゲ	//	//			●	●			
カセンソウ	キク科	//				●	●	●	
ハマベンケイソウ	ムラサキ科	//				●	●	●	
ハマイブキボウフウ	セリ科	//			○	○			
ハマオトコヨモギ	キク科	//					●	●	
ヒロハクサフジ	マメ科	//			●	●	●		
エゾヒナノウスツボ	ゴマノハグサ科	//			●	●	●		
ナンテンハギ(フタバ)	マメ科	//			●	●	●	●	
ヒメハギ	ヒメハギ 科	//		●	●				
フデリンドウ	リンドウ科	//		●	●				
スマレ	スマレ 科	//		●	●				
センダイハギ	マメ科	//			●	●			
オオバナミナグサ	ナデシコ科	//		○	○				
ノハナショウブ	アヤメ科	//		●	●	●			
ノアザミ	キク科	//		●	●	●	●		

3. 主な花の紹介

◆ 屏風山海岸の花

全部の花を一つ一つ説明すると紙面が足りないなので主なものだけ説明する。



[写真4] ハマハタザオ (浜旗竿)



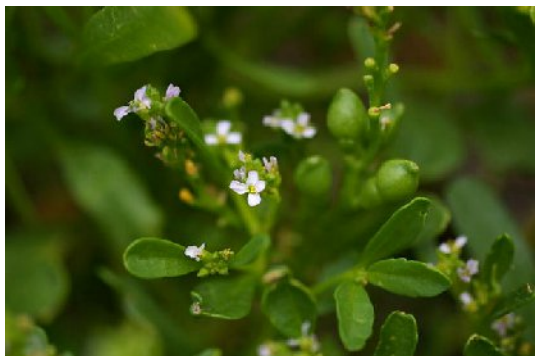
[写真5] イソスマレ (磯堇)



[写真6] エゾフウロ(蝦夷風露)
[写真7] エゾフウロの蕾 (右下)



[写真8] ハマフウロ(浜風露)



[写真9] オニハマダイ
コン(鬼浜大根)



[写真10] オニハマダ
イコンの実 (右)

◆ 風合瀬海岸の花

エゾフウロ・ハマフウロ (写真6・7・8)

和名は風露になっていて辞典で調べると『涼しい風と露のこと』となっている。牧野新植物図鑑では、なぜそんな名前が付いたかは不明と書いている。しかし、やぶなべ会の顧問である葛谷孝先生が『北の街』に長年連載した『津軽野の花、山の花』151. 152.153 に『ふうろ』の語源について詳しく述べている。要約すると、『ふうろ』とは三方が囲まれて一方があいて入り口になっていることから来ている。

1. 遠州では、鎮守の森をフロの森と言っている。この中は日が当たり暖かいのでこのような環境を好むフウロソウがたくさん咲いているのでフウロソウとなったのではないかな。
2. 風呂釜から来ている。『三方が囲まれて焚き口があいている』
3. お茶を沸かす釜『風炉』

このことから、正しくは風露草ではなく、風呂草か風炉草がいいのではないかな。詳しく知りたい方は、北の街をお読み下さい。

さて、エゾフウロとハマフウロの区別は萼片の毛が密生しているかないかで区別する。毛が密生しているものがエゾフウロである。エゾスカシユリとスカシユリもこれと同じである。

オニハマダイコン (写真9・10)

5、6年前に小泊近くの砂浜で、今まで見たことのない異様な形の実を付けた植物を見つけた。図鑑で探したが見つけられないままになっていた。その後種差海岸、風合瀬海岸、夏泊海岸でも見かけ帰化植物図鑑で調べやとオニハマダイコンであることが判った。草姿、種子の形が特殊で日本の植物にはない異様な形から鬼と付けられたということ。遙か北アメリカから海を越えて種子が流れ着いたのだろう。青森県では1990年西海岸十三砂浜で発見されて、今では青森県全体の砂浜に短期間で広がり繁茂している。



[写真11] アサツキ(浅葱)(白・ピンク)



[写真12] ハマゴウ(浜ゴウ)

[写真13] ハマゴウの花



[写真14] カワラヨモギ(河原蓬)



[写真15] ツリガネニンジン(釣鐘人參)



[写真16] コウボウシバ



[写真17] ハマニガナ



[写真18] ケカモノハシ(毛鴨の嘴)



[写真19] シロヨモギ(白蓬)



[写真20] コウボウムギ(弘法麦)

ハマゴウ (前ページ写真12・13)

和名は浜ゴウの意味でこの植物は方言でハウといい、ハマゴウはこれが転じたものだろうと言われている。暖地海岸に生育する落葉小低木。日本海を北上し青森県を北限とする。風合瀬海岸に群落を作っている。前に撮ったスライドが変色してしまったので2007年8月2日行ったら丁度満開であった。晴天ではあったが、地名の様に風が強く砂が飛んで来る、花は揺れるで、風の収まった一瞬を狙ってやっと撮った写真である。



[写真21] エゾオグルマ(蝦夷小車)



[写真22] ムシャリンドウ(武佐竜胆)



[写真23] ハマウツボ(浜靱)

◆ 行合崎の花

エゾオグルマ (写真21)

花の説明は、やぶなべ会報20号で書いたので省略する。1962年8月『津軽植物の会』原田敏弘氏により深浦町森山海岸で発見され日本海側の南限となっている。

ムシャリンドウ (写真22)

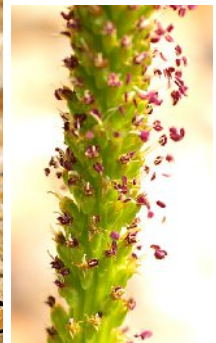
花の形がリンドウに似ていて、最初滋賀県の武佐で発見されたからと言うが、この植物は滋賀県では生育していない。(みちのくの海辺の花 葛谷孝著) この花の写真を撮りたくて、2007年6月12日行合崎へ行ったがやっと探し当てたが残念ながらまだ蕾の状態です。6月17日再度訪れやっと咲いているものを撮ることが出来た。

ハマウツボ (写真23)

葉が無く若いかぶは、色が変わったアスパラガスの様である。ヨモギ類に寄生する。形が、矢を入れる靱に似ているから名付けられた。



[写真24] トウオオバコ(唐大葉子)



[写真25] トウオオバコの花



[写真26] ヒロハクサフジ(広葉草藤)



[写真27] ハマオトコヨモギ(浜男蓬)



[写真28] フデリンドウ(筆竜胆)



[写真29] キバナカワラマツバ(黄花河原松葉)



[写真30] アズマギク(東菊)



[写真31] アサツキ群落



[写真32] ナンテンハギ(南天萩)
別名フタバハギ(双葉ハギ)



[写真33] ハマイブキボウフウ(浜伊吹防風)



[写真34] エゾヒナノウスツボ(蝦夷雛の臼壺)



[写真35] ニッコウキスゲ(日光黄菅)